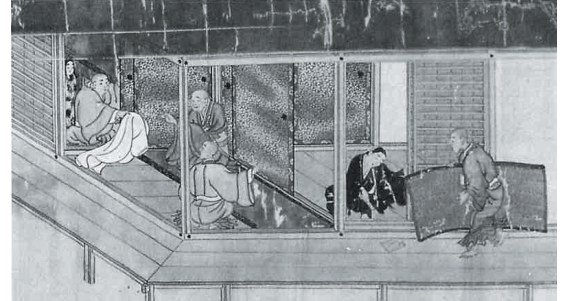




## ■主な内容

- ・ 畳技能士を育てる今
- ・ 第30回総会および記念講演会のご案内
- ・ 特集：歴史的建造物の保存再生  
歴史的建造物の保存再生について一近年の動きから  
ヘリテージマネージャーとしての活動  
JIA文化財修復塾に参加して  
イタリアの保存修復科に留学して考えたこと
- ・ 石川彌栄子さんを偲ぶ
- ・ 会員参加の本 絵本のこと



模本『春日権現験記巻十二』（東京国立博物館蔵）より\*

## 畳技能士を育てる今

Training Tatami Technicians

薄井 温子

USUI Haruko

### 畳の学校について

畳の学校、正式には「東京都畳高等職業訓練校」。当初、数学の先生を探していたそうだが、私は女子美術大学卒業なので美術ならば教えられと提案、「是非お願いします」とのことで引受け15年が経つ。自分の仕事以外にも興味を持つことの大切さを、私は美術を通し訓練生に伝えたいと思った。

### 訓練校と畳組合の歴史

畳の訓練校は1955(昭和30)年に創立。管理・指導は東京都畳工業協同組合が行っている。畳組合の歴史はもっと古く1888(明治21)年に遡り、大正、戦後にかけ形態・名称を変え現在に至っている。かつて組合は粗悪品防止や価格表決定を行っていたが、今、価格は自由競争になり、同業者仲間のつながり・情報交換が主と思われる。そして技能伝承のため、訓練校が続けられている。

### 訓練校の実技内容

3年間、実技は朝から週1~2日、教養科目として建築と美術の学科が夜間週2日ある。実技は1年生で先ず薄縁製作から始まり、裏返し(畳縁のみ新しく交換する作業、畳表は一度だけ裏返せる)、表替え(畳縁と畳表を新品に取り替える作業)、そして機械で作られた畳床に畳表を縫いつける新畳作製に進む。この他、畳の框に頭板を入れ、新畳を作る方法(頭板が入る畳は無いものより上等)や、紋縁(格式の高いものに使用)畳作製なども学ぶ。1年生では新畳1枚に1日以上かかったものが、3年生では2時間半で仕上げることができ、卒業前に実技

と学科の検定試験が有り、これに受かると、その夏の畳二級技能士試験で学科が免除される。

### 畳のこれから

残念ながら畳の仕事は減り、手作りの畳をつくる人が少なくなった。機械で作られる畳が多くなってきたからだろうが、どんな畳でも和室に隙間無くキチッと敷く方法は必要な技能である。訓練校の生徒数も少なくなり学校経営は厳しい。関東で同様の訓練校を一つにするなど何とか存続し、畳の良さを伝えてほしい。

### Web 交流会で話をして

3月2日(水)25名の参加を得て、夜7時からWebにて話をした。その後の懇親会で伊藤京子さんは計2千枚ほど畳の部屋を設計し、我々設計者が畳の良さをもっと理解しなくてはと力強い言葉。今や貴重な棕櫚床の畳についてのメールも頂いた。また小川信子先生もご参加頂き、かつて大掃除で畳を上げていた光景をお話しされ、畳がもっと我々の生活に身近なものだったと感じた。



機械縫いの藁床で新畳を作っている様子

※上部巻頭写真説明

不意の客人のために、若い僧が畳を運んでいる様子が描かれている。普段は板敷で、当時、畳が貴重なもの、可動であったことがわかる。原本は鎌倉時代に描かれた。『畳界百年の歩み』参照

## 第30回 UIFA JAPON 2022 年度総会および記念講演会のご案内 30<sup>th</sup> UIFA JAPON General Meeting and Commemorative Lecture

今年もオンラインによる開催になりました。

日時：2022年6月18日(土)

- ・ 総会 13:30~14:15
- ・ 記念講演会 15:00~17:00

『カンボンと KIP - 居住環境整備の手法 -』

講師：布野 修司氏

カンボンはインドネシア語でムラを意味する。劣悪な環境に対し、カンボン・インフラ・プログラム KIP と呼ばれ、国際的にも高く評価された整備事業の新しい展開と、その手法についてお話をいただく。



申込先 QR コード

### <プロフィール>

工学博士(東京大学)。2005年 滋賀県立大学教授・副学長・理事。2015年 日本大学特任教授。『戦後建築論ノート』『スラバヤコスモスとしてのカンボン』(2021)など多数の論文、著作がある。



布野 修司氏

歴史的建造物の保存再生について—近年の動きから  
Preservation and Renovation of Historic Buildings: Recent Developments

宮本 伸子  
MIYAMOTO Nobuko

震災を発端として歴史的建造物の保全要望がつのる

近年、文化財等歴史的建造物\*の保存・再生と利活用が、持続可能な社会の実現に向けて注目されている。特に地震等、自然災害で被災した場合、解体されがちであるという現行制度の問題もある。これらのことを踏まえ、歴史的建造物に対して建築関係者が求められる役割について、新しい制度と共に考えたい。

問題提起の発端は、1995年（平成7年）1月17日に起きた阪神・淡路大震災による歴史的建造物の倒壊や大規模な破損があり、「多くの歴史的建造物が被災し、優れた町並みの景観が失われた」とされ、その後の復元も困難であったことによる\*\*。

東日本大震災では、文化財建造物も多大な被害を受けたことから、文化庁により文化財ドクター派遣事業が平成23年度から3か年で実施された。調査から応急的措置、本格的復旧支援と進められたが、その間に文化財の専門的知識を持つ人材の不足が判明し、日本建築士会連合会では全国ネットワークでの「ヘリテージマネージャー講習」を日本建築家協会では「文化財修復塾」を行うこととなった。以下、これらの2つの制度の概要を説明する。

□ヘリテージマネージャーについて

日本建築士会連合会によるヘリテージマネージャー（地域歴史文化遺産保全活用推進員）制度とは、2001（平成13）年度に兵庫県において阪神・淡路大震災の経験をもとに、「地域に眠る歴史的文化遺産の発見・保存・活用する人材育成」のために着手したものである。その後、2011（平成23）年に東日本大震災を契機に、日本建築士会連合会の中で「全国的に歴史的建造物の保全活用に係る専門家を育成し、地域文化活性化の一翼を担う人材群として活躍する」ことを目指し、「全国ヘリテージマネー

ジャーネットワーク協議会」を設置し、各都道府県で研修会を開催し、60時間の研修を修了することとしている。

□文化財修復塾について

日本建築家協会の文化財修復塾制度は、2015年度に発足し、「大地震発災時の文化財の救援活動、文化庁委託事業の『近現代建造物緊急重点調査事業』、国交省の観光資源等 関連業務に関わる際の基本的な資格を想定」している。60時間の研修とし、ヘリテージマネージャー資格取得者には一部の研修が免除される。

これらの制度は、全国を対象としているが、都道府県によって研修の機会頻度が異なり、また資格を取得したのちに、地域貢献活動、あるいは業務として活躍するための人材活用の基盤の整い方には差があるなどの課題もある。

\* 本稿では「歴史的建造物」という名称を統一して使用する。文化財は法律による指定などの一定の要件がある。歴史的建造物は、より幅広く地域の景観を形成してきた建物、土木構造物等を指す用語として一般に使用されている。

\*\* 阪神・淡路大震災教訓情報資料集

[http://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/hanshin\\_awaji/data/index.html](http://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/hanshin_awaji/data/index.html)



阪神・淡路大震災 生田神社の被災後写真 (神戸新聞 NEXT より)



熊本地震 阿蘇神社被災後写真 (宮本撮影)

ヘリテージマネージャーとしての活動  
Heritage Manager Activities

川口 亜稀子（宮本 伸子インタビュー）  
KAWAGUCHI Akiko interviewed by MIYAMOTO Nobuko

愛知県のヘリテージマネージャー制度の概要

愛知県のヘリテージマネージャーの講座は、第1回が2012年に開催されて、私はその一期生に参加した。多くの希望者から抽選で募集枠人数の30人が受講した。

養成講座の世話役として、愛知建築士会の技術部会員の内から参加・協力して担当していたが、NPOとなった現在は愛知建築士会から業務協力依頼を受けている。現在7期まで終了している。

養成講座の内容と受講内容の印象など

私は、自身の事務所が「名古屋陶磁器会館」という登録有形文化財を使っていることもあり、ヘリテージマネージャーの制度ができて早速受講することにした。

研修の講師には、工学院大学の後藤治先生などを招き、実測などの実務や現場見学等を含めて60時間を受けることとなっている。結構ハードだったが、歴史的建造物についての話や修復の方法など、楽しく、また有意義な研修を受けることができた。

その年の講座をすべて受けられなかった方は、次の年に未修了の講習を受けることが出来るので、希望した人はほとんどが受講を完了し、修了証を受けている。

ヘリテージマネージャーの協議会は独立のNPOに

当初は建築士会の中だったが、NPO法人「あいちヘリテージ協議会」として独立させ（2017年）調査や登録有形文化財への登録などの仕事を受けられるようにしている。NPOはヘリテージマネージャーの修了者が任意で会員登録を申請する。協議会は会費等で運営、また登録等の業務を受託して、その一部を経費に充てている。

調査業務は自治体の委託が多く、各自治体と相談しながら業務内容を決めて、ヘリテージマネージャーが調査する。登録の業務は、自治体も個人もあって、自治体から紹介されて相談にこられるケースもある。規模や構造で概ねの受託経費の算出方法を決めているが、実際には建築の時期（江戸、明治等）、資料（図面、棟札、古文書等）の有無などによって変わってくる。



実際の調査などは、対象の近くの人など3～4人程度のチームで実施する。慣れている人が1～2人、初めてという人が1～2人という感じで、次第に仕事に慣れていく。手当はチームの中で分配、チームの中で図面に慣れている人は図面化を、文献等を調べることに慣れている人は所見などを書くなどの役割分担をしている。大学の先生方に協力を仰ぐ場合もある。

### 具体的な活動や今後の展望等

私はNPOの理事もしており、登録推進部会を運営している。そのため、業務としては登録の仕事が多い。協議会として年間の仕事量は5～6件程度で、まだボランティアでやっている感じがある。愛知県文化芸術文化財室の紹介で、市町村からの業務依頼もある。

文化財登録の仕事はあくまで保存修復等の過程であって、実際には活用をして使い続けることが大事だと考えている。事業者を応援したり、所有者には残してどう活用するかというところをアドバイスする必要があると考えている。合名会社中定商店は、私が調査登録を担当し、現在もサポートさせていただいている。



登録有形文化財「合名会社中定商店」(杉桶で3年熟成の豆味噌の製造販売蔵元)

### JIA文化財修復塾に参加して

#### My Experiences at the School for the Restoration of Cultural Properties

三上 紀子 (UIFA JAPON 元会員)

MIKAMI Noriko

#### 小学校の保存活動から文化財修復塾へ

私は2015年の第1回文化財修復塾の講座に参加しました。参加のきっかけは、とあることにかかわることになった築60年の木造小学校の分校の保存活用がきっかけでした。総務省のオープンリノベーションへの一提案として地元の自治体にその小さな分校の建築文化的価値を説明し、保存活用への糸口を見つけ、その方策を提案するにあたって、建築家として歴史的建造物の保存活用に関わる正しい知識を身につけたいと思ったのがその理由です。

#### 修復塾の研修の実際

修復塾では、文化財保護行政や歴史的建造物の保存活用業務に第一線で関わる行政官、研究者、建築家が講師陣として指導にあたってくださいました。

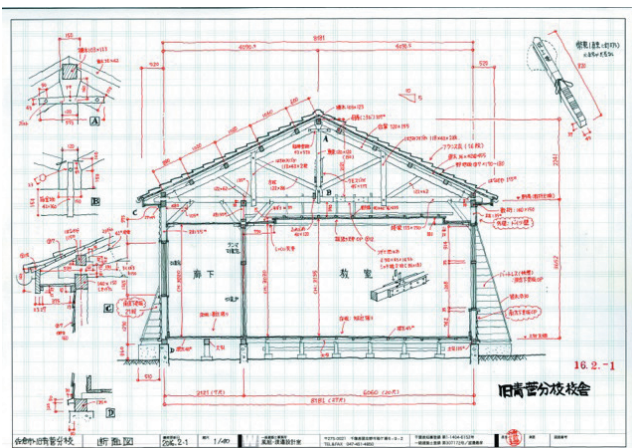
講義の内容は、“文化財の定義”からはじまり、文化財をとりまく諸関連法規、日本のみならず世界における文化財保護の実情や歴史的建造物の保存活用の実例など広範囲にわたるもので、先生方の一言一言が誇りと迫りに溢れていて、まさに生きた知識を与えていただきました。なかでも、見学講習会では普段立ち入ることができない建造物や修復工事の現場に入り、修復事業の責任者や設

計担当者からの直の解説を通して文化財建築物修復の空気に触れることができたことは大きな財産となりました。一方、全10回の講座の毎回のレポートに加え、受講の最後には厳しい修了考査も課せられ、本業の仕事の傍ら、課題提出のために徹夜をしたのもよい思い出です。

#### AOSUGE PROJECT への展開から未来へ

修復塾への参加のきっかけとなった千葉県の木造小学校の分校は、私からの提案書が契機となって市と地元大学との間に協定が結ばれ、学生を中心とする「AOSUGE PROJECT」が立ち上がりました。そしてその後、晴れて国登録有形文化財に登録され、市・地域住民・民間企業の協働を通して地元のみなさんに愛され、歴史的建物の保存・活用のための活動が次世代へと受け継がれています。

歴史的建造物の文化的価値を建築家の立場で正しく理解し、その意味を社会に伝えていくことは、建築家としての義務であり職能の一つと言えるでしょう。文化財建造物の保存再生に求められる技術力は高度な創造的行為であり、我々の行為が歴史の一部になるのです。災害復旧、保存再生、文化継承、建築をとりまく新しい課題に、これからも建築家の一人として微力ながら貢献していければと思っています。



JIAの建築家有志で青管分校を現地調査・実測した結果をもとに作成し、佐倉市に提出した断面詳細図(作図:渡邊義孝氏)。保存への決め手となった。



修復塾への参加のきっかけとなった旧佐倉市立志津小学校青管分校(千葉県)(2020年登録有形文化財)



## イタリアの保存修復科に留学して考えたこと

Thoughts on My Studies in the Department of Conservation and Restoration in Italy

阿久井 由美

AKUI Yumi

## 「残す」ので残る国、「残さない」ので残らない国

60年代、日本の大抵の町や村には伝統的な建築や空間が息づいていた。が、高度成長期後半頃から開発の様相が定着。その速度は緩め難く、温暖化や紛争で各国に被災も相次ぐ。歴史的景観や建物の危機を前に、留学時期を思い出し、改めて審美眼教育の必要性を思う。

私事だが、70年代にNHK TV「未来への遺産」に釘付けになり、木造やRCの実測に参加、80年代は建築科に入り、建築史保存修復の修士課程で実測小僧になった。だが時はバブル。土地本位の価値観の中で、解体前の記録実測も多く、「旧空間を保存しない時代」に遭遇。何を記録し、どこまで残す？ どう直す？ 「古い建物が多い他国はどうしているのだろうか？」

中国では当時、アジアの実測で見た「再開発までの時限措置的修復」が日本と重なった。欧州では学部のイタリア語授業で70年代に観光と修復で建築経済を回す例が目をつけた。

例①古い建物を壊さず社会基盤整備に活用→お荷物資産が社会資源化→財務も改善。

例②普通の既存建築群を不動産・観光の両輪で稼働→街ごとコミュニティ創出に成功。

例③地歴や真正性を厳格評価、ICCROM\* 所在国→町並保全と保存修復のメッカ。

現場を見たいと1988-1990年に修士課程を休み、イタリアの建築学部保存修復科（ミラノ工大）に留学し、一般市民に備わった「本能的な目利き力」を知った。

## 修復大国の前提にある社会の共感と無言の合意

木造が主で伝統的な部材交換の修復手法が90年代に国際的に承認された地震国の日本。組積造が主の欧州と単純に比較できないが、当時の新築優位国と修復優位国の相違は、「美の規範の庶民化」と感じた。幼少時から日常的に文化財に接し、社会に共通の価値観が醸成されている。例えば、市民の地元説明が歴史ガイド並で驚く。修復現場に見学に行くと職人や現場監督が修復介入上の不文律を理解しており、修復専門家や建築史家と熱く語る。地元の保存修復の美醜や成否が老婦人達の日常会話に上り、素人間で改修表現の誤りに気づいてしまう。これは骨董屋の門前で習わぬ鑑定をするようなもので、一朝一夕には難しい。前提には市民各自に無意識の審美眼があると思えた。美意識が自然に身につく環境が庶民の眼力を養う。安価で気軽な鑑賞の場の公共化が文化継承という概念の浸透に貢献、義務教育を通じた文化財教育で鍛錬され、景観保全や古建築空間の保存活用が常識になっている。

## 公共と市民の眼差しが地域文化財を見守る

また、数千年の文化財を質実に補完する専門庁や公的機関が保存修復大国イタリアを支える。地方分散型の同国はサッカーよろしく保存修復手法にも地域毎の差異が垣間見える。が、全国を統べる国の文化財総督局の地方分庁が地域の文化財を監督し、自治体と修復家が協力して守る。そのための公的機関の専門家への情報供与の機能は有効と思えた。

## 介入の許容度と自由度を設定して価値保全

日本の木造建物の修復は、伝統的に部材交換や移築による復元など「作る手法」も多い。イタリアは改修件数が多く、修復の方向性が修繕・回復・再生・復元等に細分化される。対象地区のルール上で許容される自由度の範囲で修復の方向性が定まる。真正性を積極的に守り、計画全体を導く事前調査で現況と課題を分析。自治体等の都市計画設定、街区の文化的位置付け、対象の文化財評価指標などを予め精査し、既存建物への介入範囲や手法を検討。防災・構造・表現の美に捉われて隠れた価値を損なわないよう配慮し、対象建物の状態や用途・目的に応じて工法を選択し、各現場で方向性を共有する。

## 修復専門家の養成で社会資源を維持

建築教育は日本と近く、大学の建築学部（意匠系・都市系）・工学部（建築技術系）と大学院（多くは国立）、工業高校や専門学校など。建築学部には設計系・都市系と並立して建築史保存修復科があり、建築史や修復家を目指す者は、設計系志望者とは別に専門的に深く学ぶ。（建築家という職業名は建築の大卒者全般を指し、研究職や保存修復専門家も含まれる。）

保存修復科の授業では、座学・実技課題とも、対象の変更用途や社会資本としての将来性、既存の地歴や現況を事前に把握・分析。改修行為による価値の改変や真正性喪失の予防を考慮し、「未来の新旧判別を可能に→削除を回避、必要部材を付加」「補強要材は可逆的に接合」「なるべく復元でなく旧状保守→例：鉄砲痕などを隠さず残し史実を表現」「介入の自由度は対象の文化財等級に沿う」「伝統景観に配慮→既存・周囲と調和する外装」等の不文律が強調されていた。

## 修復は「時代と空間を未来へどう伝えるか」

一般に、文化財は将来に文化的価値を正しく伝える役割を担う。歴史地区では修景で街を演出し、上質な「准級文化財」が地域とコミュニティを担保してきた。国を問わず、町並景観に多くを占めるアノニマスな建物をどう扱うかは地域保全の成否を占う。文化財や伝統建造物群などの歴史的資源が少ない地域や、被災や消失などの復元街区であっても、配慮と知見が積層され、創意工夫で空間の魅力が増すことで、町や村に人が集うかもしれない。そんな期待も込めて、「修復は『未来への遺産』を造ること」と、改めて思う。

\* ICCROM：《International Centre for the Study of the Preservation and Restoration of Cultural Property》文化財保存修復研究国際センター。ユネスコ機関。

街並の文化的な価値と経済性を融合した旧市街区の修復再生例：空家を回避し、財政上も持続可能な市民向け快適住宅と商店街を整備したポロニャ市の歴史地区内（整備：1976年頃）（写真は free photo のホームページより）





石川彌榮子さんを偲ぶ

Remembering ISHIKAWA Yaeko

2022年2月14日に石川彌榮子さんがご逝去されました。ここにご報告とともに、心よりご冥福をお祈りいたします。石川さんは長い間事業委員・役員を務められ、UIFA JAPON に大変貢献してくださいました。コロナ禍以前は、毎月代々木倶楽部で事業委員会を開催しており、石川さんから多くの教えをいただき大変お世話になりましたので、本当に寂しさがつづります。石川彌榮子さんの思い出をお付き合いの長い4人の方に語っていただきました。

(岸本裕子 UIFA JAPON 副会長・事業委員)

やさしかった彌榮子さん

松川 淳子

石川さんと初めてお会いしたのは、都の住宅局がまだ鍛冶橋の第2庁舎にあった時だ。職員の方が「わが方にも建築職の女性がいますよ」と石川さんを紹介してくれた。「まあ先生、初めまして。お



やえちゃんと旭(写真:松川 淳子)

名前をよく存じ上げております」と、先生でもない私に丁寧な対応で出てきた石川さんだったが、その後、UIFAの世界大会、中越や東北などの被災地支援、設立25周年記念誌の編集作業など何度も一緒することになった。とにかく優しい人だった。2015年のUIFA ヴァージニア大会で、すでに健康を害してあまり他人とのコミュニケーションがとれなくなっていた私の夫の相手をして話し込み、夫もとても楽しそうだったことなど、ありがたい思い出はつきない。石川さんの旅立ちは今でも信じられない思いだ。

ヤエコさんの思い出

上田 壽子

私の知るUIFAメンバーで、一番最初に奈良にお見えになったのがヤエコさんで、もう15年も前のことでした。室生寺などのお寺はもちろんの事、さすが建築士、吉田五十八氏設計の「大和文華館」に行きたいと言われてました。また違う時期には恩師が学校ご卒業後初めて手掛けられた最初の作品、中宮寺のお釈迦様のお厨子が公開される時期に来られました。これは旧暦のはなまつりの



2014年4月 東京国立博物館茶室前の枝垂れ桜とともに  
(写真:上田 壽子)

時にのみ生花で飾られるそうで、これも拝見いたしました。ことあるごとに来寧されて彼女のおかげで私も目からうろこがいっぱいでした。

楽しかったです！ヤエコさんありがとう！

都庁での彌榮子さんの思い出

平野 正秀

「石川家の3姉妹は疎開経験があるのよ。」とコロッと笑った石川さんは、戦後の1948年創設された東京都住宅局の数少ない女性の大卒建築職員で住宅分野のパイオニアでした。



2014年 UIFA JAPON 総会にて

(写真:上田 壽子)

彼女と働く機会を得たのは1991年の住宅マスタープラン(MP)を準備する過程でした。1990年11月のシルバーピア(SP)東掘切の竣工式を経験して、東京都の住宅MPを作るには区市のMPとSPが重要だと確信し、二人で高齢者住宅計画策定費やSP事業費の予算取りに奔走し、全都の区市を駆け回ったのが楽しい思い出です。その実績もあり全国初の「高齢者住宅係」を作り初代係長に石川さんが、私が係員になり発足しました。このため奈良の上田さんは私を「ヤエコの手下」と愛情をこめて呼びます。頑張り屋の彼女が高齢者住宅分野で博士号をとった際、係全員で彼女を胴上げた事、大学で一緒に住宅への熱い思いを講演した事が忘れられません。

石川さんさよなら。

善意のブルドーザー・彌榮子先輩さようなら

小川 かよ子

石川彌榮子さんとの出会いは、55年前、大江宏先生宅での新年会でした。都にお勤めの法政の女性先輩の存在は、眩しく心強く感じたものです。建築の女子学生はごく少数。そこで彌榮子さんが中心となり、同窓会の女性ネットワークを立上げ、男性も参加して大江作品の見学会、講演会、旅行等沢山の楽しい思い出をご一緒しました。



女性ネットワーク奈良の旅、浄瑠璃寺にて先輩の左となりで

(写真:小川 かよ子)

彌榮子先輩は努力と熱意の方、何よりも善意のブルドーザーのような方でした。奥日光で花を見せたいと強引に連れて行かれ、最終バスを逃しました。でも、湖に続く林の中は満開の見事な九輪草の大群落。彌榮子先輩の心根です。時々巻き込まれたのも楽しい思い出。感謝と共に御冥福をお祈り致します。寂しくなります。

UIFA JAPON 事務局

〒102-0083

東京都千代田区麹町 2-5-4

第2 押田ビル (株)生活構造研究所内

Phone: 03-5275-7861 Fax: 03-5275-7866

E-mail: uifa@liql.co.jp

URL: http://uifa-japon.com

発行 2022年4月25日

THE SECRETARIAT OF UIFA JAPON

c/o LABORATORY FOR INNOVATORS  
OF QUANTITY OF LIFE  
DAINI-OSHIDA BLDG.  
2-5-4, KOUJIMACHI, CHIYODA-KU  
TOKYO, JAPAN 〒102-0083

PHONE :+81-3-5275-7861

FAX :+81-3-5275-7866

URL :http://uifa-japon.com

## 会員参加の本

絵本のこと  
Authoring Picture Books谷村 留都  
TANIMURA Rutsu

## 絵本を作った経緯

「人人ネット」は愛知、岐阜、三重のアトリエ系の設計事務所を中心に工務店、専門業者の3者で家づくりを応援するグループです。弱小設計事務所は営業力が弱く、ホームページや本作り、作品展、相談会と試みている。

## 糟谷さんとの出会い

今回絵を描いてもらった糟谷さんの本業は庭園デザイナー。絵を描くのが大好きな糟谷さんが作った「MY HOUSE」を見たとき、「人人ネット」の来場者プレゼントに絵本を作っというアイデアが浮かんだ。



## 絵本の構想

一般の方に建築家が伝えられることは社会問題化していることをわかりやすく伝えること。それには子供を主人公にした絵本ならばできるかもしれないと考えた。名探偵コナン君と磯野カツオ君のイメージでちょっとおませな「アキちゃん」の目線で話をすすめれば、あやふやな専門的知識でもそれらしく思えるかなと考えた。

## リフォーム

空き家問題は核家族化がその根源にある。地方から都会の大学に行き、そのまま就職、結婚し、実家に戻らなくなる場合、地方の家は高齢者のみ世帯になるが、その先に空き家問題が発生する。もし、子供が近くに住める状況であれば、家を明け渡し、近くの手ごろな



マンションに住んで時々遊びに来ることができればいいな、との希望を物語にしてみた。

## まちなみ

都市計画の用途地域には不信感がある。私の家は閑静な住宅街にあるが、高齢になったら普段の買物が不便になりそうだ。ヨーロッパの街はいわゆる下駄履住宅で、1階に店舗があり、2,3階にオフィス、その上部が住宅になっている。町の中に仕事場と生活の場が混在している。私が子供のころの地方都市は、そんな人の体温が感じられる有機的で仕事も生活もある街だった。



## ステイホーム

便利な場所に借りていた設計事務所も潮時で少し整理縮小を考えていたちょうどその頃、コロナ感染症が拡大を始めた。自宅を仕事場にして、遠隔会議が日常化する中で、もう一度住まいとは何だったかを考えてみた。共働き世帯のために、効率よく家事をこなすという課題は常にあったことをヒントに、家での仕事の場と家族の在り方を再考してみた。



「リフォーム」「まちなみ」発行日：2019年10月  
「ステイホーム」発行日：2021年3月  
発行元：人人ネット ぶん：たにむらつ  
え：かすやまもる デザイン：表現編集者 田中智子  
この本の入手方法、費用については谷村会員まで  
(rutsu@rands-t.com)

## ■役員会報告

2021年度第5回1月21日 オンライン会議 来年度総会と記念講演会開催準備 第5回Web交流会準備 この指とまれ・明治村準備 UR集合住宅歴史館見学会準備 住まいづくりの勘所進捗報告 日本都市計画協会「業績賞」受賞報告 NL120号発送 121号企画報告  
2021年度第6回3月16日 オンライン会議 来年度総会準備役員改選 名簿チェック 記念講演会開催準備 この指とまれ・明治村準備 住まいづくりの勘所進捗報告 UR集合住宅歴史館見学会報告 Web交流会報告 NL121号進捗報告

## ■編集後記

今年の春は待ち遠しい。(薄井) / Webだけの活動の限界は“楽しくない”こと！息吹きは大事！（渡邊） / ウクライナにも早く本当の春が来ますように（宮本） / かの国では、情報が途絶えたら気力を繋げない！と。かの国の事を、聞き見るだけのもどかしい春（井出） / 新年度、争いごとや禍いを過去の話に、明るい年に（杉原） / 平和の大切さ、命の尊さを、ひしひしと感じる日々（牛山・編集長）